

| 通号   | (刊年月)     | 講話表題                                                                                                                                                              | 拝読御書 | 見出し・内容 |
|------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------|
| 001号 | (1995-03) | 【講話】我が己心を観ずべし＝一生成仏抄より《小見出し》暇あらずば叶うべからず－便利さと忙しさ－古人と現代人の学び方－一生成仏抄の教え－明鏡によるべし－仏教で説く人間の心理－ともかく法華經を持ち続けよう。                                                             |      |        |
| 002号 | (1995-04) | 【講話】仏は真に尊くしてものによらず＝王日殿御返事より《小見出し》阿育大王の故事－貧者の一灯。                                                                                                                   |      |        |
| 003号 | (1995-05) | 【講話】法華經の真価は本因妙にあり＝四条金吾殿御返事より《小見出し》無常の中に常住を見る－法華經の真価は本因妙－四条金吾殿について－倍旧の所領を給わった四条金吾殿－「いざ鎌倉」の精神－現代人が問われるもの－エゴを打ち破る信心。                                                 |      |        |
| 004号 | (1995-06) | 【講話】行学は信心より起こるべく候＝諸法実相抄より《小見出し》一信二行三学－何を信じているのか－信心の中味を点検する－三徳ということ－三徳を知らない時代の危うさ－次元の高い信仰を。                                                                        |      |        |
| 005号 | (1995-07) | 【講話】末法の仏道修行は法華經受持の一行＝法華初心成仏抄より《小見出し》經による成仏への論理的裏付け－人生において立てるべき本尊－本尊とは人生における最高の宝なり－本尊とは人生の道しるべなり－人の本尊と法の本尊－仏教の本質に迫られた大聖人－本尊に迷う他宗教－末法の仏道修行は法華經受持の一行－四恩に報ずる日々が成仏の要諦。 |      |        |
| 006号 | (1995-08) | 【講話】法華經は色読が肝要なり＝国府尼御前御書より《小見出し》仏教に依拠となる經典が不可欠－色相莊嚴の仏様と無作三身如来－白蓮華は仏様の悟りの象徴－法華經の行者ということ－同苦の精神－己を忘れて他を利する。                                                           |      |        |
| 007号 | (1995-09) | 【講話】善知識こそ大切なれ＝三三蔵祈雨事より《小見出し》善知識こそ第一の大切なれ－値い難きは真の善知識なり－法華經を依処とする道理・証文・現証。                                                                                          |      |        |
| 008号 | (1995-10) | 【講話】南無妙法蓮華經より外の遊樂なきなり＝四条金吾殿御返事より《小見出し》諸經に見られる極樂浄土－大聖人の説かれた「衆生所遊樂」－一念三千の当体・いのちの可能性－小説家・尾崎一雄の人生観－人間界の「衆生所遊樂」－三世の生命観に立つ大聖人様の「衆生所遊樂」－現時点は未来への再生の時。                    |      |        |
| 009号 | (1995-11) | 【講話】不自惜身命にて無上宝珠を得べし＝妙法尼御前御返事より                                                                                                                                    |      |        |

《小見出し》無常観について－「定めなき、世にも若きはたのみあり、ただとにかくに老いのみぞうき」藤原俊成－「とにかくに、老いはあまたの歳をへつ、定めなき世に、若きこそ憂き」藤原定家－生きる目的を知らしめる無常観－無常観を実感できない末法－愚かな衆生の覚醒－諸の貪欲を見極められる自身の確立－まず自身の信の決定を。

011号（1996-01） 【講話】道心こそ宝なり＝松野殿御返事より《小見出し》入信動機のお金の掛け違い－私権化する宗教－大聖人の目指されたもの－経済至上主義の落とし穴－変質した全体主義－宗教法人問題の本質－真実の道を求めよう。

012号（1996-02） 【講話】仏教の基本・三世の因果＝南条兵衛七郎殿御返事より《小見出し》後世を顧みない現在－後世こそ思いさだむべき－価値観を変える逆次の発送－生き方で構築できる自身の宝塔。

013号（1996-03） 【講話】賢聖は罵詈して試みるなるべし＝佐渡御書より《小見出し》厳しき自然が人を育む－大難はもとより覚悟の上なり－三箇の勅宣－魔、競わずば正法と知るべからず－大難は成仏への道。

014号（1996-04） 【興師会講話】折伏と自法愛染《小見出し》門流の分裂－大聖人様の誓願－自法愛染ということ－大聖人様の行ぜられた折伏－自己主張のみを繰り返す宗・創－法門と現実を立てわけて。

017号（1996-07） 【講話】法華経は後生のはぢをかくす衣なり＝寂日坊御書より《小見出し》自然が示す摂理－無明の闇を照らす法華経－日本人の恥の概念－恥のために命を賭した人々－御書中に説かれる「恥」－心の宝としての「恥」を胸に懐くべし。

018号（1996-08） 【講話】一切を法華経に身を任すべし＝王舎城事より《小見出し》落慶を期し信心の再出発を－大火と申すは聖人のさり、王の福つくる時をこり候－事行にて理の本性顕わる－法華経に一切を任せ給へ－勇気こそ法華経を信ずる証し。

019号（1996-09） 【講話】御みやづかいを法華経とをぼしめせ＝檀越某御返事より《小見出し》法華経もよも日蓮をばゆるき行者とはをぼせじ－法華経の身読を至福とされた大聖人－苦境に立つ金吾殿を励まされる大聖人－無定見な物質主義に陥ってしまった日本人－世法が優先する日本社会－組織に忠実である以前に仏法に忠実に－今、このところが法華経の道場。

020号（1996-10） 【講話】盂蘭盆御書と平家物語＝盂蘭盆御書より《小見出し》仏教とキリスト教の生死観と倫理観－平家物語に見る日本人の無常観－因果応報の理－心理学の自己実現。

021号（1996-11） 【講話】人の心かたければ、神のまもり必ずつよし＝寺泊御書より《小

見出し》依智より寺泊へー流罪人・日蓮への非難ー和氣清麻呂と下和の故事ー確信に裏付けされた大聖人様のお姿ー今の勸持品は未来の不軽品たるべしー心のかたければ神のまもり必ずつよし。

022号（1996-12） 【講話】 始めは事なきようにて、終にほろびざるは候はず＝聖人御難事より《小見出し》熱原法難をめぐる御書ー三度目の流罪の噂ー仕組まれた弾圧ー奢る平左衛門ー終にはほろびざるは候はず。

023号（1997-01） 【目師会講話】 宮沢賢治の心と世界《小見出し》宮沢賢治の生誕百周年ーいち早く評価した哲学者の谷川徹三ー昭和19年9月22日、東京女子大に於いて「雨ニモマケズ」を講演ー。ー宮沢賢治への評価と素顔ー宮沢賢治と法華經の信仰ー平成8年8月の読売新聞に「賢治と切り離せぬ信仰」と題した梅原猛の評論ー普遍性をもった賢治の詩と童話の世界ー折伏行としての創作ー「經、埋へき山」の意味ー豊かさの代わりに失ったものー心の豊かさとはー日目上人・辞世の句「代々を経て、思いをつむぞ富士のねの、煙よをよべ、雲の上まで」。

024号（1997-02） 【講話】 仏になる行は時によるべし＝聖人御難事より《小見出し》成仏得道の手本・熱原法難ー人道主義ということー遠藤周作の殉教観ー正義に生命を賭すことの難しさー生命よりも重いものー熱原の農民たちの殉難の意味ー仏になる行は時によるべし。

025号（1997-03） 【講話】 成仏は法を思う一念にあり＝開目抄より《小見出し》各々の信仰の中味が問われる時ー第一過去世の業因ー第二順次生ー第三善神捨国ー貧女の譬えー成仏とは法華經を思う一念の姿。

026号（1997-04） 【講話】 法華經の精神を身につけた生き方を＝草木成仏口決より《小見出し》有情非情にわたる一念三千の法門ー日本人の自然観を培った仏教思想ー日本の無宗教主義がもたらしたものー真の信仰の確立こそ急務。

027号（1997-05） 【講話】 折伏は真の慈悲の表れなり＝法華初心成仏抄より《小見出し》よき師・よき法・よき檀那ー慈悲とは嚴愛なりー二乗根性は成仏の妨げー慈悲・平等・忍耐ー衣座室の三軌ー折伏の根本精神は真の慈悲心。

028号（1997-06） 【講話】 御本尊とは法華經の行者の一身の当体なり＝日女御前御返事より《小見出し》法華經信仰と仏教宗派の成立ー身延離山と門流の分立ー後世の門流分立ー日蓮正宗の分裂と低迷ー法華經の題目をもって本尊とすべしー御本尊は、ただ信心の二字におさまれりー不変の人法一箇の大御本尊。

030号（1997-08） 【講話】 四箇格言の精神＝諫曉八幡抄より《小見出し》題号の由来ー仏様の本意に従われた大聖人ー慈悲なき折伏は独善的振る舞いなりー法華折伏の法門に

ついて―一切衆生のため・国のため・私心なき法華經の行者。

031号 (1997-09) 【講話】 仏は依法不依人と定め給へり＝聖愚問答抄より《小見出し》  
死を忘れた現代人―良観房の慈善事業―曖昧な世間の評価―良観房の行状の本質―宗教の  
本来の役割に立って。

032号 (1997-10) 【講話】 回向の精神＝上野殿御消息より《小見出し》 仏道修行の根  
幹をなす報恩―報恩とは利他の精神―仏教とキリスト教の死後の生命の考え方の違い―法燈相  
続によって安穩な社会の実現を。

033号 (1997-11) 【講話】 竜口法難に学ぶ＝種種御振舞御書より《小見出し》 科学的  
に証明された竜口法難の奇瑞―竜口の頸の座の意味―大聖人のお振る舞いに学ぶ―相対的  
な自我を知る―まずは唱題から。

034号 (1997-12) 【講話】 十四誹謗と慢心＝松野殿御返事より《小見出し》 法華經の  
心に背いて唱える題目―十四誹謗―驕慢―我慢偏執の心―懈怠―計我・浅識―著欲・不解・  
その他―組織・集団としての謗法―己心の魔に負けないように。

035号 (1998-01) 【目師会講話】 永遠の生命を信ずるということ《小見出し》 日目上  
人の天奏―人間が抱える根元的な不安―宇宙飛行士の体験―「ものの大きさは相対的なも  
のであり、連続して繋がっていることを感じた―地球の美しさはまさに、生命の輝きそのも  
のに感じられた―生命もまた、時間・空間とともに連続して、連なっている事実だった  
―」―永遠の生命を信ずるということ―ゲートルは「あの夕陽をご覧ください、あの地平線の彼方  
に沈もうとしている夕陽を見てどう思うか―夕陽が地平線から消えて隠れてしまっても、  
決して夕陽がなくなってしまうのではないことを知っているから少しも動じもしない  
し、うろたえることもない。我々の命も同じこと」

036号 (1998-02) 【講話】 時に適う信心とは＝南条兵衛七郎殿御書より《小見出し》  
正信覚醒運動への道筋―宗教の五綱―末法という時―五濁の世―末法無戒―見濁―価値観  
の混乱―信仰を持つということ―永遠の中の今に自己を立てる。

037号 (1998-03) 【講話】 正直の徳について＝諫曉八幡抄より《小見出し》 大聖人が  
懷かれた諸宗への疑問―百王思想の基底をなす正直の徳―八幡大菩薩および諸天の加護―  
大聖人の現世安穩の確信―まず自己の内面に寂光浄土を築け。

038号 (1998-04) 【講話】 大聖人の出自と浄土宗破折＝善無畏三蔵抄より《小見出し》  
大聖人の出自とその意味―十界平等の精神―日本における念仏の流行―衆生の機根に合わ  
せる念仏の誤り―信心為本ということ―自分の気づかない尊い仏性が必ずある。

039号 (1998-05) 【講話】 大聖人のご消息にみえる慈悲＝上野殿母尼御返事より《小

見出し》大聖人の心情を綴られたご消息－ストレートな病状の記述－仮名書きの消息に込められたもの－本当の慈悲とエゴ－共感する心の発露としての慈悲。

040号（1998-06） 【講話】 不輕菩薩の行に学ぶ＝呵責謗法滅罪抄より《小見出し》法華經本門に立てられた大聖人の仏法－本門の菩薩と大聖人－不輕菩薩は末法の修行の手本－不輕行の位－不輕菩薩への迫害の意味－忘れられた不輕菩薩。

042号（1998-08） 【講話】 本尊を受持するということ＝日女御前御返事より《小見出し》宗創紛争の根にあるもの－矛盾した本尊觀・信仰觀－御本尊を持つということ－能持の人ということ－本尊を自分の命に受持する－心の底ですべての人の幸福を願う。

043号（1998-09） 【講話】 聞法の大切さ＝上野殿御返事より《小見出し》阿育王の故事－阿育王の前世譚－時光殿の志の篤きを称う－聞法の大切さ－法華を知るものは世法を得－破綻している現代人の思考方法－まず自分自身の意識改革から。

044号（1998-10） 【講話】 宝は信樂慚愧の衣の内にあり＝松野殿御返事より《小見出し》驕慢の意味すること－内在する仏性を信ずる－衣裏珠の喩－聞法の大切さ－互敬の精神。

045号（1998-11） 【講話】 必ず身命を捨つるほどの事ありてこそ＝佐渡御勘気抄より《小見出し》經文のごとくとは－歴史上ただ一人の身読者－誤った不惜身命の実践－仏様の智慧－仏知見とは－エゴが増長した姿－真実の不惜身命の信心－ワン・フォー・オール(一人は万人のために)。

046号（1998-12） 【講話】 生命の不思議＝道場神守護事より《小見出し》心固ければ則ち強し－人体の不思議－生物進化のメカニズム－一切衆生は皆父母なり－一念を正しく持つことの重要性－人生の醍醐味。

047号（1999-01） 【講話】 信とは自ら随喜すること＝日女御前御返事より《小見出し》「信」の意味するもの－一念信解とは－稀有な存在としての人間－すべてを肯定－卒啄の機を待つべし。

048号（1999-02） 【目師会講話】 日目上人と常随給仕《小見出し》日目上人の生涯－「代々を経て、思をつむぞ、富士のねの、煙よおよべ、雲の上まで」－信心修行の肝要－常随給仕－「法華經を、我が得しことは、薪こり、菜つみ水汲み、仕へてぞ得し」－日目上人は嫡子分－師弟相對の法門－人生に無駄なことは一つもない－どこまでも仕えていく心。

049号（1999-03） 【講話】 法華經の真髓「変毒為藥」＝四条金吾殿御返事より《小見出し》四条頼基と江間光時－欲を持ったままの成仏－身近な変毒為藥の例－※①乙武洋匡著「五体不満足」－※②Sさんの独創的なデザイン－※③橋本義一さんの臨終－「ようやくに、預

かりしものと識る命、楽しく老いて、お返し申さん」-「湯に浸り、音たてぬ吾を気づかいて、生きてはりまっかと、老妻の声」

050号（1999-04） 【講話】 大聖人の慈悲行について＝開目抄より《小見出し》誤解されている折伏観－慈悲の発露としての折伏－大聖人の人間的な側面－仏とは慈悲の姿－衆生の三毒を盛んにする今の宗教。

051号（1999-05） 【講話】 「仏法は勝負」ということ＝四条金吾殿御返事より《小見出し》「勝負」ということの誤解－御書中の「勝負」の用例－時代背景の理解－「御成敗式目」の成立と裁判－道理を重んじた時代－道理を旨とする仏法－宗・創は「依人不依法」。

052号（1999-06） 【講話】 「生命の尊重」ということ＝可延定業御書より《小見出し》命は一身第一の珍宝－総別ということ－矛盾の根底にある意味－野村監督の人生哲学－「人として生まれる、人として生きる、人を生かす、人を生む」－。－真の生命尊重。

054号（1999-08） 【講話】 本宗の法衣と数珠＝当家三衣抄より《小見出し》衣は身の章－素絹・五条の袈裟－薄墨の法衣－三衣即三身如來の相好－三衣の意を含む当家の数珠－次第を超越するなかれ。

055号（1999-09） 【広宣寺法華講総講演】 自分を生かす心とだめにする心《小見出し》生きるということの意味－己れを生かす法とは－捨てる人こそ捨てぬなりけり－誰もが持っている菩薩の心。

056号（1999-10） 【講話】 現代に生きる「立正安国論」＝立正安国論より《小見出し》「立正安国論」の姿勢－社会性をもつ「立正安国論」－「立正安国論」の位置－正法治国の考え方－時代性の超克－法華経色読の出発点。

057号（1999-11） 【講話】 われはこれ塔建つるもの＝阿仏房御書より《小見出し》宝塔の意味－他と切り離すことができない我々の存在－我が身がそのまま妙法蓮華経の当体であり宝塔－われはこれ塔建つるもの－宮沢賢治は、昭和8年9月27日に38歳で亡くなりました－死ぬ一月前に作ったといわれている詩－「手は熱く足はなゆれど、われはこれ塔建つるもの」－「滑り来し時間の軸の、をちこちに美(は)ゆくも成りて、－燎々と暗をてらせる、その塔すがたかしこし」－むさぼりて厭(あ)かぬ渠(かた)ゆゑ、いざここに一基をなさん、－正しくて愛(は)しきひとゆゑ、いざさらに一を加へん」。

058号（1999-12） 【講話】 大聖人の竜口法難の姿に学ぶ＝一昨日御書より《小見出し》平左衛門頼綱の弾圧－良観房と真言律宗－良観房の祈雨の顛末－我々が竜口法難から学ぶべきこと。

059号（2000-01） 【目師会講話】 仏法為本の姿勢に生きる＝より《小見出し》仏法と

王法－日目上人、天奏の意義－宗教心の喪失と蔓延するエゴイズム－泥中の蓮華のごとく。

060号（2000-02） 【講話】 観心の本尊について＝観心本尊抄より《小見出し》法本尊開頭の書「観心本尊抄」－妙法蓮華經の宝塔の示すもの－教相の本尊と観心の本尊－末法観心の本尊とは－信仰の確立こそ肝要。

061号（2000-03） 【講話】 我執と信心について＝上野殿御返事より《小見出し》誤った入信動機－正しい信仰姿勢－本当の幸せとは－カルトの定義－正しい信仰は自分の人生を肯定。

062号（2000-04） 【講話】 誓願と人生＝上野殿御返事より《小見出し》老化現象ということ－誓願につながる生き方－「アルジャーノンに花束を」(ダニエル・キイス著\_早川書房)を読む－本当の財－真実の自己を発見すること。

063号（2000-05） 【講話】 信行学の姿勢について＝曾谷入道殿許御書より《小見出し》信を偏重した念仏宗、行を偏重した道元禅－中道的な大聖人の教え－仏智とは－生涯を通して学問された大聖人－偏頗のない信行学を。

064号（2000-06） 【講話】 真の自己とは何か＝義浄房御書より《小見出し》－自分とは何か－自我偈の中の「我」の意味するもの－「我」と「衆生」をつなぐキーワード「見」－自己をどう生きるか。

066号（2000-08） 【講話】 我等は無始以来の衆生なり＝大田左衛門尉御返事より《小見出し》地域・時代によって変化する価値観－我々の認識外に存在するもの－生命は無始無終の存在－「一」ということの意味－慈悲の大海の中に生かされる身。

067号（2000-09） 【講話】 信とは無二の志にあり＝日女御前御返事より《小見出し》日女御前御返事・薬王菩薩の焼身供養－灯明とは仏の慈悲・智慧－心の闇を照らす灯明－生死の長夜を照らす灯明－他人のために自分を捧げる－他人を照らす灯りが自らをも照らす。

068号（2000-10） 【講話】 立正安国論と国家＝立正安国論より《小見出し》さまざまな「国」のとらえかた－分離された政治と宗教－誤った「国」のとらえ方にはらむ危険性－求められるグローバルな視点－立正安国・一生成仏・広宣流布、は同じ意味。

069号（2000-11） 【講話】 法華經の回向の精神＝法蓮抄より《小見出し》父母の孝養から起こる知恩・報恩－一切衆生は皆父母なり－計り知れない父母の恩－妙法蓮華經の姿は認識を越えた因果－心理学と仏教－理解ではなく信ずることが大切。

070号（2000-12） 【講話】 正しいものの見方と正信＝報恩抄より《小見出し》ものを

見る目－因果をわきまえない衆生－どのように見るか－法華経は教主釈尊の本師なり－正法を根本に。

071号（2001-01） 【講話】 大聖人の誓願と我らの信仰＝開目抄より《小見出し》門下からの疑問－不退転の志－三大誓願の意味するもの－日本第一の智者となし給へ－信仰の原点。

072号（2001-02） 【講話】 命というもの＝崇峻天皇御書より《小見出し》四条金吾と江間光時－自然界と人間との連鎖－本質的に持っている同一性－内薫外護－陰徳あれば陽報あり。

073号（2001-03） 【講話】 仏性の開発＝法華経題目抄より《小見出し》仏道に入る根本は信をもって本とす－値い難き法華経－宗教的な価値を忘れた時代－求められる多様な価値の認識とその調和－価値を再発見する時代。

074号（2001-04） 【講話】 日蓮大聖人のご精神＝佐渡御勘気抄より《小見出し》天恵の地・安房小湊－日本で一番早く日が昇る地－信念と慈悲に生きられたご一生－マクロな視点－法華経の信仰の中に永遠の今を見つける。

075号（2001-05） 【講話】 日蓮大聖人のお心にふれる＝老病御書より《小見出し》「日蓮聖人の世界展」への誘い  
－御真蹟に触れる

076号（2001-06） 【講話】 法華経を体する生き方＝一生成仏抄より《小見出し》一念ということ－切り離せない自分と外界－ある町長の生き様－外側の世界がそのまま自分の心。

077号（2001-07） 【講話】 法華経観心の修行法＝四信五品抄より《小見出し》末法における修行は題目の受持－根本の動機が肝要－受持行は志が大切－信心は九識で、修行は六識で－お題目を命の中心に。

078号（2001-08） 【講話】 自身の価値観に固執すべからず＝曾谷殿御返事より《小見出し》ある婦人の悩み－掛け違えたボタン－別の見方はなかったのか－御書解釈の落とし穴。

079号（2001-09） 【講話】 宗祖の予言の意味するもの＝法蓮抄より《小見出し》宗祖に起きた奇瑞をどうとらえるか－国の乱れと災害－大聖人の予言－三世・未萌を知る聖人－正しく未来を見通すためには。

080号（2001-10） 【講話】 題目を受持するということ＝法華題目抄より《小見出し》末法思想ということ－題目は要の法華経－題目の受持とは－死の封印－快楽を求め続けることの弊害－法華経との値遇は希有のこと。

081号 (2001-11) 【講話】心身の浄化ということ＝当体義抄より《小見出し》成仏の理を示された御書－命を濁らせる信仰－臨終は人生の総決算－この世の中をどう捉えるか。

082号 (2001-12) 【講話】「釈尊の所領」ということについて＝法門可被申様事より《小見出し》三徳を供える仏－歴史学と仏教の歴史観－妙法の中から生まれた経典－生きているということの根源－本因妙の教主釈尊を大聖人に見る。

083号 (2002-01) 【目師会講話】当家の三祖の表される法門について《小見出し》仏法における師弟の意味－三宝と本尊－仏法のものの見方－法華経に説かれる仏と衆生の関係－一心に南無妙法蓮華経を。

084号 (2002-02) 【講話】転重軽受ということ＝転重軽受法門より《小見出し》生まれながらにある差別－仏教思想の差別と平等－仏教の因縁観－転重軽受ということ－相対的次元から脱れる。

085号 (2002-03) 【講話】仏法と歴史認識＝神国王御書より《小見出し》仏教の時間的概念－歴史の叙述－歴史的事実の疑問－歴史的事実をどうとらえるか－歴史を主体的に生きる。

086号 (2002-04) 【講話】無常と常住＝聖愚問答抄より《小見出し》死を自覚するかしかないか－無常を実感しにくい現代－まず臨終を習うて－日寛上人は「良馬の譬え」－。常に悲観を懷いて、心、遂に醒悟(めざめ)ぬ－もし、死ななかつたら－以前、お葬式に行った時に、ある子供に、「なぜ人間は死ぬんですか」と聞かれ、返答につまったことがあります。それ以来時々、自分に問いかけてみるんですが、もう一つ、答えが出ない。そこで、こう考えました。もし、百歳になっても、二百歳・三百歳・四百歳になっても死ななかつたとしたら、どうなるだろう－悔いのない生き方のために。

087号 (2002-05) 【講話】真実の賢人とは＝四条金吾殿御返事より《小見出し》四条金吾への誡め－賢人と申すはよき師より伝へたる人－悪人に親近すれば－「徒然草」に学ぶ－八十五段「狂人の真似とて大路を走らば、則ち狂人なり。悪人の真似とて人を殺さば、悪人なり。麒麟を学ぶは麒麟の類ひ、舜を学ぶは、舜の徒(ともがら)なり。偽りても賢を学ばんを、賢といふべし」

088号 (2002-06) 【講話】四信五品抄を拝す(1)＝四信五品抄より《小見出し》現在の四信と滅後の五品－末法の衆生の機根－幸福の定義－幸福の秘訣。

089号 (2002-07) 【講話】四信五品抄を拝す(2)＝四信五品抄より《小見出し》戒・定・恵の三学－戒－定・恵－宗教心の喪失と知恩信を以て恵に代ふ。

090号（2002-08） 【講話】 此れを知れる者、但日蓮一人なり＝開目抄より《小見出し》鎌倉時代の仏教－大聖人の覚悟－仏教に基づいた価値判断－現代にもある同様の姿－爪上の土。

091号（2002-09） 【講話】 四信五品抄を拝す(3)＝四信五品抄より《小見出し》末代は信の一字が修行の根本－なぜ信が大切なのか－初心は縁に紛動せられる－近年の誤り－志が大切。

092号（2002-10） 【講話】 四信五品抄を拝す(4)＝四信五品抄より《小見出し》なぜ題目だけを唱えるのか－筏の喩え－生死を貫くもの－健康や長寿ということ真の人生は妙法蓮華経の中に生きること。

093号（2002-11） 【彼岸会講話】 ありのままの姿を認めて生きる＝妙心尼御前御返事より《小見出し》「病院で死ぬということ」の衝撃－あるがままをあるがままに－生死は法性の起滅－仏の慈悲を信じて受けとめる。

094号（2002-12） 【講話】 信心とは人間観の立て直し＝佐渡御書より《小見出し》仏になる人もなかるべし－現代人を取り巻く病い－アメリカイズする社会－幸福とは何か。

095号（2003-01） 【講話】 難に値うと心得て持つべし＝四条金吾殿御返事より《小見出し》此経難事のこと－持続の大切さ－難をどうとらえるか－ものの見方を変える難－難が信仰を確立させる－たとえどんなことがあろうとも。

096号（2003-02） 【講話】 我らが唱える題目とは＝妙密上人御消息より《小見出し》口唱題目についての批判－称名と受持唱題－学会流の謬り－自行化他にわたる題目・本門の題目－立場による解釈の違い－自分の命を南無妙法蓮華経と受持する。

097号（2003-03） 【講話】 立正安国の精神の継承を＝立正安国論より《小見出し》仏の未来記にもおとらず－天災と人災－幕府の宗教政策－原因は間違った宗教－若者が未来に希望を持たない日本－立正安国の精神の継承を。

098号（2003-04） 【講話】 宝塔の意義について＝阿仏房御書より《小見出し》塔と起塔供養－宝塔涌現の意義－我が身そのものが宝塔－仏とともに－自分の生命を宝塔のように。

099号（2003-05） 【講話】 日蓮大聖人の御本尊＝阿仏房御書より《小見出し》宝塔品の説相と本尊－相反する御妙判－六種の教主釈尊－大聖人の御本尊の本意。

100号（2003-06） 【講話】 大聖人の信仰の基本姿勢＝破良観等事より《小見出し》鎌

倉時代の仏教界の実態－鎌倉仏教の祖師の宗教的契機－宗祖の修学の姿勢－専ら經文を詮とせん－教相と觀心。

102号（2003-08） 【講話】 恩を知り、恩を報ずべし＝報恩抄より《小見出し》知恩・報恩は仏道修行の根本－眞の報恩は法華經にあり－支えられ生かされている存在－実相＝見えない姿－恩を報ずるとは。

103号（2003-09） 【講話】 雪山童子の故事に学ぶ＝松野殿御返事より《小見出し》雪山童子の故事－どのように受持するか－今の一念を前向きに－法華經に信を置いて。

104号（2003-10） 【講話】 いつとなく日月にかけをうかぶる身なり＝国府尼御前御書より《小見出し》心のあり方で異なるものの見え方－心身一如・物心一如－戒定恵の三学－法界がそのまま日蓮大聖人のお姿。

105号（2003-11） 【講話】 道ということ＝土木殿御返事より《小見出し》大聖人は大難をいかに捉えたか－道とは－「道」に三義－日寛上人は「依義判文抄」で「道」を「虚通」「所践」「能通」。－三世を貫く道を歩む－芭蕉も「この道や、いく人なしに、秋の暮れ」－芭蕉のみならず、高村光太郎の「道程」にしてもそうですが、多くの勝れた人々は、みな「道」を行じているのですが、その道も、もともとは仏道ということがあって、その上において、世間のいろいろな道というものが生まれてきたのです。それが日本の長い伝統的な文化として発展してきたのではないかと思います－。

106号（2003-12） 【講話】 父母の孝養＝刑部左衛門尉女房御返事より《小見出し》日本人が得たもの、捨てたもの－不幸の者は大地微塵よりも多し－父母の恩の重さ－死後の孝養法華經の力によってかなう成仏。

108号（2004-02） 【講話】 南無妙法蓮華經から涌く智恵＝開目抄より《小見出し》行きづまる社会－仏法と世法－世法に成仏無し－信によって開かれる境地－とらわれるから離れる－足下を見つめて生きる。

109号（2004-03） 【講話】 仏法と報恩＝報恩抄より《小見出し》報恩の大切さ－なぜ報恩が大切か－觀念勝れたり－仏教の信仰－觀念から直達正觀の信へ。

110号（2004-04） 【講話】 心地を九識に、修行を六識に＝上野殿後家尼御返事より《小見出し》過去世からの深い縁－我等の胸の中にある浄土と地獄－自らが、どう捉えるか－法華經の信仰から生命を捉え直す－心地を九識に、修行を六識に。

111号（2004-05） 【講話】 自己をどのようにとらえるか＝報恩抄より《小見出し》「バカの壁」の指摘－一切衆生の中の命－想像を絶する因縁－本当の信仰を持つことの大切さ。

112号（2004-06） 【講話】 宝塔品の儀式の意味するもの＝開目抄より《小見出し》 仏教の根本義・縁起－因陀羅網－宮沢賢治の「イト'ラの網」－曼荼羅に表される世界－妙法の力によって生かされる生命。・自我意識は氷山の一角に過ぎない

114号（2004-08） 【講話】 法体を信ずる＝報恩抄より《小見出し》 法華経の中心は何か－現象を支えるもの－因果の有り様－末法の仏様のあり方。

115号（2004-09） 【講話】 本当の財をしっかりと持つ＝報恩抄より《小見出し》 曾谷二郎入道法蓮は父の十三回忌を迎えるにあたって法華経を五部読んだと、消息の中に記されています。大聖人は、孝心の深い曾谷さんのために、烏龍・遺龍の故事を説かれております。－キリスト教の人間観－因縁でつながっている世界－時に適った修行－本当の自分を見出す。

116号（2004-10） 【講話】 日蓮大聖人を本師として＝曾谷殿御返事より《小見出し》 甚深無量とは境智の二法－末法の本師－謗法とは仏法の大綱に背くこと－南無妙法蓮華経の仏。

117号（2004-11） 【講話】 竜口のお振る舞いの意味すること＝開目抄より《小見出し》 執筆の動機となった竜口法難－法華経行者値難の例－値難の有無－忍難修行－信によって自身の心を高める。

118号（2004-12） 【講話】 苦と楽ということ＝より《小見出し》 四条金吾殿御返事背中合わせの苦楽－顛倒見－法界即我－三世常住の命を信ずる－本当の楽しみ。

119号（2005-01） 【講話】 心をうるおす＝新尼御前御返事より《小見出し》 故郷を思うということ－空想と現実－御本尊の大事－信の筋目－心身のバランスが大切。

120号（2005-02） 【講話】 我らの命は、南無妙法蓮華経の命なり＝一生成仏抄より《小見出し》－自分とは－一念の命－信心の眼で拝する本尊－我等は尊い宝の身。

121号（2005-03） 【講話】 御本尊への確固とした信が幸いを招く＝重須殿女房御返事より《小見出し》 心中の地獄と仏－正しい信によって仏性が顕現－幸いを万里の外より集つむべし。

121号（2005-03） 【節分会講話】 \_災いの時こそ唱題を

122号（2005-04） 【講話】 生涯求め学び行ずる精神で＝三三蔵祈雨事より《小見出し》 善知識こそ大切なれ－日蓮大聖人こそが善知識－現証とは、信仰者の振るまい－信仰の持続は、学び続けること。

123号（2005－05） 【講話】報恩の心＝上野殿御消息より《小見出し》忘れられた報恩－仏教の基本＝「四恩」－父母の恩－国主の恩－一切衆生の恩・三宝の恩－三世にわたる報恩。

124号（2005－06） 【講話】信心の目的は成仏＝上野殿後家尼御返事より《小見出し》自他のつながり－自我のありようと臨終のとらえ方－胸中の浄土と地獄－正しい信仰のあり方－仏様の教え、道理に身をゆだねる。

126号（2005－08） 【講話】法華本門の法華経＝治病大小権実違目より《小見出し》二種の法華経のとらえ方－枝葉の仏と根本の仏－法華経の本仏は全体をして一仏という－いざという時ほど大信力を。

127号（2005－09） 【講話】信の構造＝聖愚問答抄より《小見出し》以信得入－妙法蓮華経の意味－妙法蓮華経とは成仏の種子－自分を鏡に映すように－精進し続ける。

128号（2005－10） 【講話】生きた法華経信仰＝千日尼御返事より《小見出し》法華経に入りぬれば唯一人の身－法華経が真実であることの確信－千日尼への思いやり－悲しみを共有する。

129号（2005－11） 【講話】大聖人の身読の意味＝種種御振舞御書より《小見出し》衣座室の三軌の身読－肉体だけが命ではない－法は而二不二－信仰によって感得する法界全体の命－大聖人の精神に学ぼう。

130号（2005－12） 【講話】大聖人の誓願＝開目抄より《小見出し》大聖人の法華弘通の覚悟－「本願を立つ」か＝「大願を立てん」か－大聖人の誓願－大聖人は末法における主師親－法華経をすすめるは地獄の業なるべし。

131号（2006－01） 【目師会講話】「道場」の真の意味《小見出し》日目上人のお姿は信行の手本－聖地が限られた特定の場所というのは誤り－当知是処即是道場の考え方－正信の中に道場を確認する。

132号（2006－02） 【講話】折伏ということ＝唱法華題目抄より《小見出し》唱法華題目抄－大聖人の折伏主義－慈と悲－身口意にわたる化他行としての折伏－下種結縁。

133号（2006－03） 【講話】心の豊かさとは＝妙心尼御前御返事より《小見出し》心こそ大切－グローバルズムの功罪－豊かさは内面的なところにある－心の貧しさ－納得できる生き方を－私は今が本当に幸せだ

134号（2006－04） 【講話】法華経を信ずる人は冬のごとし＝妙一尼御前御消息より《小見出し》妙一尼の夫の思い－冬は必ず春となる－自我の壁－法界即我－智慧とは気づくこ

と。

135号（2006－05） 【講話】臨終のことを習う＝妙法尼御前御返事より《小見出し》臨終の姿が示すもの－臨終のことを先に習う－臨終を迎える心構え。

136号（2006－06） 【講話】国について＝南條兵衛七郎殿御返事より《小見出し》宗旨の三箇と宗教の五綱－知国という物差し－随方毘尼という考え方－物を正しく見る目を。

138号（2006－08） 【講話】現代人の考え方と仏法＝上野殿後家尼御前御返事より《小見出し》現代人の考え方と仏法の考え方－死と自我意識－実態のない自我－蘇生の義とは－法界と一体になる。

139号（2006－09） 【講話】立正安国論の現代的意義＝立正安国論より《小見出し》鎌倉時代の政治と宗教－体制に組み入れられた仏教－誤った「国」の捉え方－直面する問題。

140号（2006－10） 【講話】仏教の世界観と回向＝上野殿御返事より《小見出し》信心を相続された南条時光－世間と仏教の世界観の違い－客体視することの弊害－回向は生きている者の使命。

141号（2006－11） 【講話】観心の本尊とは＝観心本尊抄より《小見出し》本尊の元意－己心を観ずる鑑としての本尊－仮想と現実－信仰により正しい命を。

142号（2006－12） 【講話】御本尊の照覧を銘じて＝同生同名御書より《小見出し》同生天・同名天－意識がものを見る－意識の中に住む－生まれる前からの記憶－道理に適った生き方。

143号（2007－01） 【目師会講話】日興門流の本尊義《小見出し》末法における仏・本尊－日興門流の本尊が表すもの－三幅一對の事－形は違っても、意は一つ。

144号（2007－02） 【講話】妙とは不可思議なり＝立正観抄より《小見出し》法華經と止観－妙法とは－生かされている不思議－唱題によって感得を。

145号（2007－03） 【講話】一念三千の妙法について＝一代聖教大意より《小見出し》宗祖の摩訶止観講読－摩訶止観の一念三千法門－止観の十境・十乗－大聖人を師として

146号（2007－04） 【講話】一念三千の妙法について(続)＝十章抄より《小見出し》十界互具－一念三千の構成－十如是・三世間－十如是的三転読誦

147号（2007－05） 【講話】草木成仏のころ＝観心本尊抄より《小見出し》難信難解

の法華經－本尊受持が観心修行－仏法の説く物事の本質。

148号（2007－06） 【講話】五重三段の法門＝観心本尊抄より《小見出し》滅後末法のために説かれた法華經－種脱の相違－教相判釈(五重三段)－教相から観心へ。

150号（2007－08） 【講話】身を持し、心に物をなげかざれ＝富木尼御前御書より《小見出し》尼御前の病－病とその心構え－信仰と病への対処－信を根本に身を持す－心に物をなげかざれ。

151号（2007－09） 【講話】醉生夢死ということ＝松野殿御返事より《小見出し》快樂主義・拝金主義のもたらすもの－生死は一睡の夢－本当の喜び－化城喩の意味すること－最後臨終を楽しみにする信心。

152号（2007－10） 【講話】死者との共生＝千日尼御前御返事より《小見出し》「殯の森」に思うこと－死者との関係－家族の崩壊－仏教で説く、人間本来の在り方－死者との共生を感じる心が信仰の始まり。

153号（2007－11） 【講話】行位ということ＝四条金吾殿御消息より《小見出し》竜口の刑場は寂光土－下根下機の自覚－石川啄木の歌－以信得入。

154号（2007－12） 【講話】法華經的生き方＝法門可被申様之事より《小見出し》三位房の京訛り－京都と関東の風土の違い－末法思想と辺土思想の超克－マイナスをプラスに転ずる考え方。

155号（2008－01） 【講話】命」ということ＝白米一俵御書より《小見出し》命を仏様に奉る－命は誰のもの－無数の因縁の上に、現象としてある命－修行の基本は我が身の布施－自受法樂の心地で

156号（2008－02） 【講話】汚い心に幸せは来ない＝法華經題目抄より《小見出し》お題目を唱える功德－信をもって入ることを得る－功德とは六根が清浄になること－修行の基本は仏様への給仕。掃除の功德5ヶ条

157号（2008－03） 【講話】立正安国論と環境問題＝立正安国論より《小見出し》「立正安国論」における災害の捉え方－大聖人の国土感－人間の欲望追求と環境破壊－現代文明の背景にある思想と宗教。

158号（2008－04） 【講話】大聖人の出家の志ざし＝破良観等御書より《小見出し》虚空蔵菩薩への立願－他宗の祖師と大聖人の出家動機の違い－大聖人の偏党執心のない誓願－大聖人の信仰の基本－依法不依人－法華經や御書についての異解。

159号 (2008-05) 【講話】 法華經に説かれる菩薩道＝日妙聖人御書」(前)より《小見出し》法華經に説かれる菩薩の寿命－法華經に示される成仏の姿－不輕菩薩の意味するもの－岡田 資(たすく)陸軍中將の生き方。 2008-05

160号 (2008-06) 【講話】 成仏の道＝日妙聖人御書」(後)より《小見出し》仏の心に適った者が成仏できる－いかにして成仏の功德を得るか－自ら発心を。

162号 (2008-08) 【講話】 心を浄化する信心 ＝松野殿御返事より《小見出し》名聞名利の仏教界－宗・創を取り巻く状況－瞋りの構造のおもしろい実験－不完全を自覚する。

163号 (2008-09) 【講話】 正しい仏法の判断基準＝報恩抄より《小見出し》宗教と不思議現象－法の邪正と奇瑞－仏教で説く感応妙－判断の基準は三証。

164号 (2008-10) 【講話】 千歳給仕について ＝提婆達多品第十二より《小見出し》須頭檀王の千歳給仕－八種の給仕①果を採る、②水を汲む、③薪を拾う、④食を設ける、⑤花を摘む、⑥灯を点す、⑦席を清める、⑧庭を掃く－現代人の病－目標を持って－心を込めたお給仕を「法華經を、我が得しことは、薪こり、菜摘み・水汲み、……」

165号 (2008-11) 【講話】 竜口法難に学ぶべきこと ＝四条金吾殿御消息より《小見出し》命よりも大事な仏法－逆転する大聖人の価値観－ある登山家の生き様「夫婦で挑んだ白夜の大岩壁」山野井泰史・妙子夫妻。

166号 (2008-12) 【講話】 天晴れぬれば地明らかなり ＝観心本尊抄より《小見出し》一閻浮提第一の本尊立つべき時・国－時機相応の本尊－天晴れぬれば地明らかなり－先見性をもたらすもの。

167号 (2009-01) 【講話】 信仰と社会、人生＝立正安国論より《小見出し》心の中の道－お経に見える末法の姿－個人と社会の関係－日本の二回目の敗戦。

168号 (2009-02) 【講話】 心固ければ神の守り強し ＝道場神守護事より《小見出し》心と体の関連性－強い一念心を持つことが大切－内剛外柔と平常心－難を通して成長を。

169号 (2009-03) 【講話】 国家・社会と宗教 ＝立正安国論より《小見出し》国家・社会を規定する宗教－人間が人間である限り宗教は無くならない－現代に通ずる鎌倉の時代相－縁を大切にする生き方－本当の喜び、楽しみとは。

170号 (2009-04) 【講話】 法華經の信を大聖人のお姿に学ぶ ＝土木殿御返事より《小見出し》大聖人のご確信は慢心に非ず－現に勝れたるを勝れたりという－慢心は自己愛から。

171号（2009－05） 【講話】お題目を唱える意味＝一生成仏抄より《小見出し》二元論と因果論－ものごとの本当のありよう－心の内と外－信心を磨く。

172号（2009－06） 【講話】人生の目的 ＝十法界明因果抄より《小見出し》成仏の道を示す法華經－仏様の世界－ある投書から－信行は道しるべの確認作業。

174号（2009－08） 【講話】師弟の絆を支えるもの＝四条金吾殿御返事より《小見出し》四条金吾の変毒為薬の体験－法華經の信仰に命を賭した弟子・檀越－未来を信じる生き方－仏教の生命觀を身につけることが大切。

175号（2009－09） 【講話】宗祖の三度の高名について＝撰時抄より《小見出し》大聖人の三度の高名－予言をどう捉えるか－法華經に説かれる因・果・国。

176号（2009－10） 【講話】盂蘭盆と施餓鬼について＝四条金吾殿御書より《小見出し》盂蘭盆と施餓鬼－布施行を行ずる意味－供養は菩提心の源。

177号（2009－11） 【講話】一水四見について ＝法蓮抄より《小見出し》一水四見－古歌「手を打てば 鳥は飛び立つ 鯉は寄る 女中茶を持つ 猿沢の池」－「沙羅の四見」(船守書)－「見」ということ－心のありようが決める。

178号（2009－12） 【講話】当宗の信心のあり方 ＝四信五品抄より《小見出し》末法初心の修行者の位－仏の常住を信ずるか否か－化儀に表された名字即の位。

179号（2010－01） 【講話】法華經はなぜ難しいのか＝諸經与法華經難易事より《小見出し》難信難解の法華經－随他意の諸經と随自意の法華經－仏法は体・世間は陰。

180号（2010－02） 【講話】真実の報恩とは＝報恩抄より《小見出し》現代社会から消えた恩の思想－四恩報恩－真実の報恩とは。

181号（2010－03） 【講話】題目は一切經の神(たましい)＝曾谷殿御返事より《小見出し》命をつぐ物－法華經は五味の主－法華經の生命觀。

182号（2010－04） 【講話】お題目と因縁觀＝法華初心成仏抄より《小見出し》お題目を唱えるということ－「みみへまいらす」ということ－仏教の因縁觀に立ったものの見方－月の満ち欠け

183号（2010－05） 【講話】現証ということ ＝治病大小権実違目より《小見出し》創価学会流現証論の余弊－大聖人の仏法における現証とは－元凶は三毒の心－末法は冥益。

184号（2010－06） 【講話】異体同心ということ＝異体同心事より《小見出し》異体同

心の意味－正しい師を見分ける－物事は道理・信義によって決まる歴史を超えて残るもの。

187号（2010－08） 【講話】 父母を知らざれば禽獣に同ず＝開目抄より《小見出し》 仏教以前の思想・宗教－三皇以前は父を知らず－三世をふまえた教え＝仏教。

188号（2010－09） 【講話】 法華とは独善にあらず＝観心本尊得意抄より《小見出し》 迹門を捨てよ」の意味－法華経は成仏のお経－寿量品の仏。

189号（2010－10） 【講話】 不変的真理としての仏法＝立正安国論より《小見出し》 宗教と政治－法主国従」が仏教本来の精神－仏教的視点の大切さ。

190号（2010－11） 【講話】 摂受・折伏の論争＝開目抄より《小見出し》 摂受・折伏の考え方－逆縁ということ－折伏と受難－法華経の本来的な精神－大聖人の御精神をより深く－最近、「仏教タイム」で、立正大学名誉教授の今成元昭氏と、興風談所の山上弘道師が、大聖人の摂受・折伏観について論戦－今成氏は日蓮宗系の国文学者－日蓮宗は戦国期に「天文法乱」があり、さらに「安土問答」で織田信長に弾圧されて以来、折伏を放棄した人々が主流－関西学派と称する人々が天台教学による摂受主義を唱え、近世には「立正安国論」は不用とまで主張…。

191号（2010－12） 【講話】 教主釈尊より大事なる行者＝土木入道殿御返事より《小見出し》 大聖人の御確信－末法は題目をもって本尊とすべき時－法華経の行者を讃嘆する功德－教主釈尊より大事なる行者。

192号（2011－01） 【目師会講話】 日目上人の生き方に学ぶより《小見出し》 日目上人出家の意味－目に見える物と見えない物－盛者必滅ということ－何に喜びを感じるか。

193号（2011－02） 【講話】 仏道修行の基本＝四信五品抄より《小見出し》 仏道修行の基本、戒・定・恵の三学－法華経での三学のとらえ方－法華経修行者の位－一念信解が根本。

194号（2011－03） 【講話】 無縁化社会と仏教＝重須殿女房御返事より《小見出し》 我等の心中にある地獄と仏－我々の心の中に、本当の仏はいるのか－千差万別の衆生－仏種従縁起。

195号（2011－04） 【講話】 生きる力＝開目抄より《小見出し》 苦難を生きる－何が人をも動かす力となるか－お題目を生きる力として。

196号（2011－05） 【講話】 自然災害と信仰＝宿屋入道許御状より《小見出し》 自然災害の天譴(てんけん)説－人間力がためされる非常時－災害からの連鎖－共感と想像力－現実を直す中から光明が－信仰していれば災難に遭わないのか。

197号（2011-06）【講話】信心と同苦の精神＝乙御前御消息より《小見出し》自らを支えるもの－自然災害と信仰を結びつける誤解－強い信仰によって安心立命を。

199号（2011-08）【講話】自己を支えるもの＝千日尼御返事より《小見出し》法華經一句の読誦は、一代聖教すべてを読むことに－死をどのように受けとめるべきか－未来を見据えた視点－心の奥底に正しい信仰を。

200号（2011-09）【講話】不老不死ということ＝経王御前御返事より《小見出し》信心の世界・世俗の世界－未来を見据えた視点－信仰世界にある不老不死。

201号（2011-10）【講話】「道」について＝化城喻品より《小見出し》・苦尽の道を識らず－和泉式部と性空の故事－何故に道に迷うか－道の三義。

202号（2011-11）【講話】不惜身命と生命の尊重＝種種御振舞御書より《小見出し》死をどう捉えるか－漱石「硝子戸の中」に見える死生観－矛盾しない生命尊重と不惜身命－古歌に「身を捨つる人は自ずとすてぬなり、すてぬ人こそ捨つるなりけり」「身をすてぬ人は自ずと捨てるなり、捨つる人こそ捨てぬなりけり」

203号（2011-12）【講話】恋慕渴仰の心＝国府尼御前御書より《小見出し》法前仏後と人法一箇－大聖人を思慕する意味－渴仰恋慕の心が大切

204号（2012-01）【講話】時代相と信仰＝滅劫御書より《小見出し》三毒強盛な現代人－経済優先が招いたもの－法界そのものが我々の命の世界－仏教の世界観は、自己と他人や環境を絶対的に隔絶して、自己を孤立した存在ととらえるのではなく、すべて関係性をもって連続している因縁観や法界観なのです。…自我意識の執着から解放すれば、みな大自然の中で互いに支えあって一体となって生きている生き物、同じ命なのです…。

205号（2012-02）【講話】信心の功德は清浄にあり＝義浄房御書より《小見出し》末法の修行は妙法蓮華經の受持－どのようにして心を清浄にするか－六根清浄とは即身成仏－末法の修行の手本は不輕菩薩。

206号（2012-03）【講話】師檀となることは三世の契り＝秋元殿御返事より《小見出し》妙法蓮華經の信仰と諸天の守護－大聖人は滅後の衆生の大導師－妙法によって生かされて生きる。

207号（2012-04）【講話】大聖人に問うということ＝妙法尼御前御返事より《小見出し》物事に対する検証－社会に巢食う「やましき沈黙」－価値観・人生観の立て直し。

208号（2012-05）【講話】自然災害と信仰＝秋元御書より《小見出し》災害とその本質

－外在的環境をどう捉えるか－法華信仰の目指すもの。

209号（2012－06）【講話】 仏道と忍耐する心＝四恩抄より《小見出し》「猶多怨嫉」の末法－大聖人の値難の原因－仏道修行の要諦は忍難－忍辱行の功德。

211号（2012－08）【講話】 仏の如く互ひに敬ふべし＝松野殿御返事より《小見出し》唱える題目の功德に差別あり－仏法でいう悪とは十四誹謗－慈悲行としての折伏。

212号（2012－09）【講話】 観心の本尊について＝観心本尊抄より《小見出し》観心とは－仏教という宗教－自具の十界－御本尊・大聖人を鏡として。

213号（2012－10）【講話】 父母の恩徳＝刑部左衛門尉女房御返事より《小見出し》忠と孝－四つの因果説と孝養－父母の恩を知ること。

214号（2012－11）【講話】 受難と罪障＝呵責謗法滅罪抄より《小見出し》罪の意識なくした現代人－誰もが持っている罪障－法華経を鏡とする－唱題で心を清浄に。

215号（2012－12）【講話】 国家・社会と宗教＝蒙古使御書より《小見出し》国家と宗教の関係－大聖人の国の捉え方。

216号（2013－01）【講話】 因果を知る＝聖人知三世事より《小見出し》卓抜な仏教の因果のとらえ方－仏教と科学の因果のとらえ方－仏教とキリスト教の因果のとらえ方－一念心に集約される業。

217号（2013－02）【講話】 日蓮が弟子檀那としての信仰を＝四信五品抄より《小見出し》無限のつながりの中の自分－なぜ、題目だけを唱えるのか－心をどう転じていくか。

218号（2013－03）【講話】 「立正安国論」に学ぶこと＝立正安国論より《小見出し》国家社会と思想宗教－御書講初めは、「立正安国論」を拝読する習わし－大聖人のご一代は「立正安国論に始まり立正安国論に終わる」－立正安国論の精神とは何か－現代に通ずる「立正安国論」の指摘－国が乱れる根本の理由。

219号（2013－04）【講話】 宝塔の意味するもの＝阿仏房御書より《小見出し》法華経の宝塔－宝塔とは我が身のこと－宝塔ましますところが道場。

220号（2013－05）【講話】 競争と共助＝蒙古使御書より《小見出し》三世を見通す智者－強欲資本主義の行き着く先－仏教の立場

221号（2013－06）【講話】 阿閼世コンプレックス＝一生成仏抄より《小見出し》心の健康－妙法蓮華経とは－一心の中の地獄と浄土－阿閼世コンプレックス－仏の世界を一念に。

223号（2013-08）【講話】先づ臨終の事を習ひて＝上野殿御返事より《小見出し》石河殿の姫御前の臨終－大聖人の仏法の生死観－臨終の一念。

224号（2013-09）【講話】病と信仰＝可延定業御書より《小見出し》病の種類と原因－医者と患者の関係－唱題は六根清浄と懺悔滅罪の行－自己肯定の信仰。

225号（2013-10）【講話】汝等あきらかに聞け（汝等諦聴）＝千日尼御返事より《小見出し》法華經に説かれる仏様の命－命は因縁のつながり－仏様の声を聞く感性を大切に。

226号（2013-11）【講話】聞法下種について＝兵衛志殿御返事より《小見出し》聞くということ－仏になる種－仏様の教えを聞く。

227号（2013-12）【講話】自我と生死観＝法蓮抄より《小見出し》難を乗り越える力－自我と生死－法華經の行者を供養する功德－釈尊より大事なる行者。

228号（2014-01）【講話】一心にお題目を唱える＝法華經題目抄より《小見出し》名は体にいたる－妙法とは－どのように妙法を持つか－信が最も大切。

229号（2014-02）【講話】妙法と因果国＝一生成仏抄より《小見出し》妙法とは－宗祖の宇宙意識－自然のとらえ方の違い－自分の命の状態を映す鏡。

230号（2014-03）【講話】信仰で道理に適った振る舞いを＝重須殿女房御返事より《小見出し》あらゆる物事にある光と影－現代人が取り戻すべきもの－仏教の人間観－すべての人々の幸福を願って。

231号（2014-04）【講話】心の中にある如意宝珠＝日妙聖人御書より《小見出し》日妙聖人の信心－本当の宝－宝をどう生かすか。

232号（2014-05）【講話】秘密と血脈＝法華取要抄より《小見出し》日本人が伝えてきたもの－法華經でいう「秘密」の真意－妙法に生かされる存在。

233号（2014-06）【講話】柔和忍辱衣＝御衣並単衣御書より《小見出し》衣の徳－衣・座・室の三軌－忍辱の衣－娑婆とは堪忍世界－数珠と合掌。

235号（2014-08）【講話】「開示悟入」ということ＝観心本尊抄より《小見出し》己心中に具わる十界－四仏知見－開・示・悟・入－自分にも具わっている宝。

236号（2014-09）【講話】「二つの時」ということ＝撰時抄より《小見出し》「時」の大切さ－法華經における「時」の概念－宗祖己心中における「時」。

237号（2014－10）【講話】回向の精神＝上野殿御返事より《小見出し》大聖人と上野殿の縁－心とものの見方－心の世界と現実世界－回向の精神。

238号（2014－11）【講話】法華經第五の巻が意味するもの＝上野殿御返事より《小見出し》法華經第五巻で打擲－逆縁下種の仏法－勸持品の身読－少輔房の存在－涌出品の暗示－大聖人をお手本に。

239号（2014－12）【講話】逆次の読み＝法華取要抄より《小見出し》滅後のために説かれた法華經－動執生疑から開顕・顕本へ－逆次の読み。

240号（2015－01）【講話】法華經の人間観＝從地涌出品第十五より《小見出し》法華經が説く、迹門の世界と本門の世界－地涌の菩薩の出現の本当の意味。

241号（2015－02）【講話】大善をやぶる小善は悪道＝下山御消息より《小見出し》因幡房日永の帰依－諸經に超越した法華經－大善をやぶる小善。

242号（2015－03）【講話】境智冥合ということ＝曾谷殿御返事より《小見出し》無限大の繋がりの中にある自分－法界の姿は妙法蓮華經－生きていることそのものが素晴らしい。

243号（2015－04）【講話】卞和が璞(あらたま)」が意味するもの＝寺泊御書より《小見出し》門下からの大聖人への批判－卞和が璞－生死を超越された境界とは－卞和が璞は、我々の心そのもの－動執生疑ということ－先見性ということ。

244号（2015－05）【講話】四条金吾の忠節と信仰＝頼基陳状より《小見出し》親子二代の忠節－「安国論」の予言と二月騒動－大聖人の予言の意味－大聖人の上行菩薩自覚。

245号（2015－06）【講話】法華經を明鏡として＝神国王御書より《小見出し》大聖人の疑問－現代日本人の心－心を映す鏡－法華經を明鏡とする。

247号（2015－08）【講話】無常観について＝上野殿母尼御前御返事より《小見出し》南条七郎五郎の死－無常観の違い－逆転した価値観の世界。

248号（2015－09）【講話】大海の一滴＝富木殿御返事より《小見出し》帷の供養－つながりの中にある命－宮沢賢治の宇宙意識－現実を支えるための世界観。

249号（2015－10）【講話】知恩 報恩＝上野殿御消息より《小見出し》忘れられた人としての規範－見直すべき伝統の概念－人として手本とすべきもの。

250号（2015－11）【講話】竜口法難と本懷成就＝土木殿御返事より《小見出し》法難直

後の大聖人のご心境－生命よりも大切なもの－本懷成就－発迹顕本。

251号（2015－12）【講話】観心と信心＝白米一俵御書より《小見出し》爾前経と法華経の違い－二つの視点－現実の中にある妙法蓮華経。

252号（2016－01）【講話】下種と順縁・逆縁＝秋元御書より《小見出し》雑修と専持－種・熟・脱の法門－下種に信・謗の二類あり－就類種と相對種－順縁の信。

253号（2016－02）【講話】信の方向＝顕謗法抄より《小見出し》人生行路－信ずるということ－四種の信解（信而不解・解而不信・亦信亦解・非信非解）－解而不信は謗法。

254号（2016－03）【講話】信仰と社会＝立正安国論より《小見出し》誤解された立正安国論－立正安国論」の性格と体裁－立正安国論の心。

255号（2016－04）【講話】人の心の有り様と社会＝神国王御書より《小見出し》百王思想の破綻と疑問－法華経の一念三千－市場原理主義と格差社会－できるだけ仏様の心に。

256号（2016－05）【講話】二つの仏種＝始聞仏乗義より《小見出し》二種類の成仏の種－近代的自我意識の限界－常住の浄土のあるところ－煩惱即菩提ということ。

258号（2016－07）【講話】仏法のものの見方＝曾谷殿御返事より《小見出し》仏知見と凡見－仏教のものの見方－法華経のものの見方。

259号（2016－08）【講話】法華経と妙法蓮華経＝高橋入道殿御返事より《小見出し》法華経の系譜と上行菩薩の自覚－法華経と妙法蓮華経の違い－法華経の仏とは。

260号（2016－09）【講話】仏法の人間観＝観心本尊抄より《小見出し》現代人の人間観－人間を疎外する科学－仏教の人間観－大聖人と一般仏教との違い。

261号（2016－10）【講話】法華経の孝養＝上野殿御返事より《小見出し》親を知ること－感性と孝養－真実の孝養とは。

262号（2016－11）【講話】竜口法難に学ぶ＝土木殿御返事より《小見出し》法難は「心ゆへ」－真の信仰者の強さ－死中に活を求める。

263号（2016－12）【講話】一念の受持と三大秘法＝義浄房御書《小見出し》大聖人は寿量品をどのように見られたか－三大秘法とは以信代慧－余事余念を交えないお題目を持つ。

264号（2017－01）【目師会講話】王仏冥合は祭政一致か《小見出し》国家諫暁と王仏冥合の誤解－新しい時代への期待－王仏冥合は祭政一致か－根底は、人間の価値観・人間観。

265号（2017-02）【講話】順逆ともに成仏＝上野殿御返事より《小見出し》法華經第五の巻の意味すること－逆縁の成仏－法華經は怨親平等。

266号（2017-03）【講話】信仰の寸心を改めて＝立正安国論より《小見出し》政治と宗教の関わり－その処が道場－己心中の世界。

267号（2017-04）【講話】念を一境にする、貧女の一念＝開目抄より《小見出し》貧女の譬え－念を一境にする－一心に法華經を受持。

268号（2017-05）【講話】知恩報恩と主師親＝上野殿御消息より《小見出し》恩－目に見えない因縁－人と動物の違い－親を知る－主師親三徳の仏。

270号（2017-07）【講話】随自意と随他意＝衆生心身御書＝より《小見出し》随自意と随他意の教え－法華經は随自意のお経－滅後の弘教。

271号（2017-08）【講話】死の捉え方とその解決＝松野殿御返事より《小見出し》法華講の先人のこと…故古江前講頭は…「臨終が楽しみである」…。－岸本英夫著「死を見つめる心」－仏教の死生観。

272号（2017-09）【講話】身口意の受持＝新池御書より《小見出し》生命というもの－信心修行の目的－身口意の三業の修行－心を込めた修行。

273号（2017-10）【講話】盂蘭盆会の意義＝四条金吾殿御書より《小見出し》お盆の意味－餓鬼道の姿－法華經による救い。

274号（2017-11）【講話】竜口法難に学ぶ＝渡御勘気抄より《小見出し》受難の心－過去の歴史の再現－受難の喜び－予言の的中－法難から学ぶべきこと。

275号（2017-12）【講話】身口意の三業の信心＝法華經題目抄より《小見出し》題目の功德－身口意の三業－法華經の受持が根本。

276号（2018-01）【目師会講話】日目上人と申状の精神《小見出し》日目上人の出自－日目上人の国諫－申状の精神。

277号（2018-02）【講話】お題目で一心清浄を＝義浄房御書より《小見出し》掃除十徳と修利槃特－一心欲見仏は妙法蓮華經－一心欲見仏の実践は正法護持。

278号（2018-03）【講話】立正安国の精神＝立正安国論より《小見出し》立正安国論と

鎌倉時代－国家と宗教の関係－国が先か、法が先か－立正安国論の謬った捉え方。

279号（2018－04）【講話】法華經の行者日蓮＝開目抄より《小見出し》法華經の行者の検証－仏に成る道を説かれた仏教－仏教的な生き方。

280号（2018－05）【講話】三大誓願について＝開目抄より《小見出し》大聖人の誓願－三大誓願の意味するところ－生涯を通して持たれた誓願。

282号（2018－07）【講話】心身は法の器＝秋元御書(1)より《小見出し》器は我らが心身－器に4つの失－法華經の信は不雑。

283号（2018－08）【講話】日本第一の悪まれ者＝秋元御書(2)より《小見出し》謗法呵責の故の怨疾－信の違い。

284号（2018－09）【講話】謗人・謗家・謗国＝秋元御書(3)より《小見出し》用心すべき三義－謗家ということ－謗国ということ－正しい血脈観に立った信心を。

285号（2018－10）【講話】お題目の意義＝一生成仏抄より《小見出し》妙とは、法とは－妙法蓮華經の意味－妙法蓮華經の受持と仏縁。

286号（2018－11）【講話】広宣流布と国家主義＝上野殿後家尼御返事」(1)より《小見出し》己心の靈山浄土－広宣流布運動の失敗。

287号（2018－12）【講話】日蓮大聖人の生命観＝上野殿後家尼御返事」(2)より《小見出し》大聖人の生命観を知る重要性－一念三千の生命観－大海の一滴－迷悟不二。

288号(2019－01)【目師会講話】日目上人の生き方《小見出し》日目上人のご一生－求道のお姿－日目上人のお心

289号（2019－02）【講話】なぜお題目を信行するか＝十章抄より《小見出し》一念三千の出处－まちがった開会の理解

290号（2019－03）【講話】法華經と立正安国論の精神＝立正安国論より《小見出し》仏教の繁昌と大聖人の疑問－国土衰微の理由－法華經の生命観。

291号（2019－04）【講話】仏教の生命観＝総在一念抄より《小見出し》色心不二の生命観－イナ－ゲーム－色心にわたる妙法受持。

292号（2019－05）【講話】無縁の慈悲とは＝開目抄より《小見出し》無縁の慈悲－嚴愛の二義－不輕菩薩の精神－同苦の精神。

294号（2019－07）【講話】 真の不惜身命とは＝開目抄《小見出し》貧女の譬－生命に対する2つの考え方－念を一境にする－南無ということ。

295号（2019－08）【講話】 心の病について＝中務左衛門尉殿御返事より《小見出し》病を正面から捉える－身の病と心の病－病氣に対する心構え。

296号（2019－09）【講話】 法に過ぎれば罰あたりぬるなり＝聖人御難事より《小見出し》大聖人の出世の本懐と大難－法華經の行者を迫害する罰－歴史上に見る法華迫害の現罰。

297号（2019－10）【講話】 難を乗り越える信心＝聖人御難事より《小見出し》なぜ大難が起きるか－難を乗り越えてこそ得るもの－ただ一円に思い切れ－生涯不退転の信仰を。

298号（2019－11）【講話】 生死を超越する信仰 ＝土木殿御返事より《小見出し》竜口法難と大聖人の心境－自身の命よりも重い法華經－正しい仏法で真の安心に。

298号(2019－11)【日曜講話】 忍耐と努力－ 秋はいろいろなスポーツのイベントが行われますが、スポーツ選手で一流のアスリートになるには、大変な努力と忍耐の物語があるのです。

299号（2019－12）【講話】 慢心について ＝土木殿御返事より《小見出し》宗教と歴史の次元の違い－大聖人の自負－驕慢の頂に智水宿らず。

300号（2020－01）【講話】 平等と差別＝開目抄より《小見出し》差別に反応する社会－仏教の平等－三世両重の因果－平等差別と一念三千。

301号（2020－02）【講話】 仏知見ということ ＝曾谷殿御返事より《小見出し》方便品に説かれる四仏知見－ものの見方の三つの要因－(1) ものの見方は、その人のいのちの状態(境界)による。 ・(2) ものの見方は、その人の過去の経験や業(感果)による。 ・(3) 煩惱の見惑 ＝ 五利使と五鈍使－一切衆生に具わる仏性。

302号（2020－03）【講話】 一念三千の法門について ＝立正安国論より《小見出し》一念三千の身土－一念三千の諸相－法華經によって目を開く。

303号（2020－04）【講話】 己心の法門について＝蒙古使御書より《小見出し》万法は己心に収まりて一塵もかけず－予言の的中－忘れられた己心の法門。

305号（2020－06）【講話】 災害と信仰 ＝守護国家論より《小見出し》災害と宗教－疫病と心の病－信仰を持つということ … 信仰を持たない人は、本能に任せて生きる動物と一宗教的な人格、つまり人間がモノや動物。－疫病に対する心構え 。

306号（2020－07）【興師会講話】五一の相對について＝富士一跡門徒存知事より《小見出し》大聖人の仏法は本門主義－二つの本門・脱益と下種－五老僧が理解できなかった理由－あるがままにものを見る智慧。

307号（2020－08）【講話】一念三千と草木成仏＝観心本尊抄より《小見出し》一念三千は難信難解－法界と一体の我等－日本人の思考の底流にあった一念三千。

308号（2020－09）【興師会講話】難を忍ぶ信心＝三沢抄より《小見出し》法華經の信心に起こる三障四魔－本師違背の科－三障四魔、天子魔－忍辱の衣、難を忍ぶ。

309号（2020－10）【興師会講話】一生成仏について＝上野殿母尼御前御返事《小見出し》この御消息は、時光の弟・故五郎の四十九日の供養につき、心からの弔慰のため法門を述べられたものです。法華經の成仏－色心の二法－法華經は変毒為藥。

309号（2020－10）【日曜講話】ここが仏道修行の道場

310号（2020－11）【講話】竜口法難と生命観＝種種御振舞御書より《小見出し》竜口法難と宗祖の御心境－現代人の生命観－もう一つの生命観－生命を生かす方法。

311号（2020－12）【講話】色心不二について＝千日尼御前御返事より《小見出し》心こそ大切に候へ。－唯心論と唯物論－通ずる心、共鳴する心－法華經の色心不二。

312号（2021－01）【目師会講話】御三祖の法門的意義《小見出し》三という字の持つ意味－代々を経て 思いをつむぞ 富士の根に 烟よ及べ 雲の上まで」－概念化ということ－法義上の日目上人。

313号（2021－02）【講話】社会不安と法華經の教え＝守護国家論より《小見出し》日本の国は謗国－現代社会の状況 … 富の独占－社会不安にどう対処するか－現代人の思い上がり。

314号（2021－03）【講話】心の病を直す妙法＝治病大小権実異目《小見出し》心の病とは－爾前經は対症療法－真の自我の覚醒－なぜ法華經の信仰者も罹患するのか－題目を唱え仏国土に。

315号（2021－04）【講話】前代未聞、未曾有の御本尊＝新尼御前御返事《小見出し》重恩ある人からの本尊授与の願い出－未曾有の大御本尊－日本こそが新しい仏法が現れる国－厳しい教えこそ大聖人の慈悲。

316号（2021－05）【講話】ものの見方、捉え方＝上野殿御返事より《小見出し》時と場所によって変わる価値観－凡夫の見方と仏様の見方－命の根源に宿されている仏種。

317号 (2021-06) 【講話】 生死ともに仏なり =上野殿後家尼御返事より《小見出し》ものごとをどう見るかー大田南畝(蜀山人)は辞世、「今までは人のことだと思ふたに 俺が死ぬとは こいつはたまらん」ー無常ということー豊臣秀吉の、「露と落ち 露と消えにし 我が身かな 浪華のことは 夢のまた夢」ー良寛の辞世の句、「散る桜 残る桜も 散る桜」この句からは「聖愚問答抄」に引かれた歌が連想されます。「あはれなり 鳥べの山の夕煙 おくる人として 脱がるべきかは」ー井伏鱒二の唐詩の名訳「花に嵐のたとえもあるぞ さよならだけが人生だ」ーご先師方の辞世から見えるものーまず、日興上人は、「ついに我が 住むべき野辺の 方見れば かねて露けき 草枕かな」「よろづをば 棄てて入るにも 山の端に 月と花との 残りけるかな」ー日有上人聞書「ちらぬ花 入らぬ月とも 見つるかな もとのまゝなる 人の心を」ー日目上人「代々を経て 思いをつむぞ 富士のねの 煙よをよべ 雲の上まで」ー日寛上人「囿空為桶 空即是空 桶即是仮 吾在其中 日寛 (花押)死ぬるとは たがいひそめし くれ竹の 世々はふるとも いきとまる身を」ー日霑上人「つたなくも 香のみは残れ 三たびまで 御法の枝に 結ぶ果の」ー荒木清勇「老いぼれし 身の永らえて 詮もなし 生まれ代わりて ご奉公せん」ー日寛上人「末の世に 咲くは色香は 及ばねど 種はむかしに 替らざりけり」ー妙寿尼の辞世「いざ今日は 暇をもらって 故郷の 御親の元に 帰るうれしさ」。

318号 (2021-07) 【講話】 一念三千について =観心本尊抄より《小見出し》一念三千の出処ーマンドラ・チャートーお題目の受持が末法の修行。

319号 (2021-08) 【講話】 心に如来の衣を =御衣並単衣御書より《小見出し》忍辱の衣ー法華經供養の功德ー心をコントロールする。

319号 (2021-08) 【日曜講話】 貪欲に染まらずに信心を堅持

320号 (2021-09) 【講話】 今この時が、仏道修行の時 =千日尼御返事より《小見出し》お題目にすべてが含まれるー真の豊かな世界ーどこでもが、仏道修行の道場。

321号 (2021-10) 【お経日講話】 地水火風空の五大とは《小見出し》経済至上主義のツ  
… 大石寺でも、私らが小僧の頃までは樹齢500年とか700年くらいの樹木がたくさんあって、自然の豊かだったことを今でも覚えています。明治20年の大石寺「明細誌」には、「一丈以上一丈五尺未満 杉63本 一丈五尺以上二丈未満 杉18本 二丈一尺五寸 杉壺本」…。ー五大という考え方 …ー五大が示す依正不二 … 物を大切にするとするのは、日本の伝統的な考え方です。… 日本人の野球選手 … 大工さん …。日有上人の「化儀抄」の中には、「管絃を学ぶ時は妙音の恩徳を報じ、釜をつかふ時は釜の恩徳を大切にし、臼をつかふ時はうすの恩徳を大切にすることあり」…。(了)。

322号 (2021-11) 【講話】 信念を支えるもの =開目抄より《小見出し》ー法華經は仏の未来記ー正法を信ずる強さー自信の源泉ー未来世を信ずるー小林虎三郎と米百俵

323号（2021－12）【講話】妙法蓮華經の信心＝立正安国論より《小見出し》仏教の基本、四仏知見・八正道－法の四依－正とは一の止まる所

324号（2022－01）【目師会講話】富士門流伝統の精神《小見出し》日目上人の出家・修行と入滅－日目上人の出自－日目門流の受け継ぐべき精神。

325号（2022－02）【講話】不輕菩薩の修行に学ぶ＝顕仏未来記より《小見出し》不輕菩薩のイメージ－不輕菩薩の行位は名字即－礼拝という折伏と逆縁－教団目標としての広宣流布－法体の広宣流布－不輕菩薩は、末法の手本。

326号（2022－03）【講話】四条頼基への教訓を通して＝崇峻天皇御書より《小見出し》疫病と四条頼基の窮地－内薫外護ということ－因果律と転重輕受－四条金吾への細々とした指導。

327号（2022－04）【講話】法難に処するお姿に学ぶ＝土木入道殿御返事より《小見出し》佐渡の大聖人－大聖人の慈悲－逆次の読み

328号（2022－05）【講話】一念三千の生命＝守護国家論より《小見出し》法華經の受持－文底秘沈の法門－一念三千の法門

329号（2022－06）【講話】父母にご孝養の意あらん人々は法華經を贈り給へ＝刑部左衛門尉女房御返事」＝より《小見出し》二十貫文と欲深き御坊－忠孝は世法の骨、仏法の眼－不孝、不知恩の者は大地もこれを支えられず－父母の恩を知ること－恩を知ること、自分を成長させる。

329号（2022－06）【日曜講話】諸の苦の因は貪欲が本

330号（2022－07）【講話】教相と観心（相待妙と絶待妙）＝一代聖教大意より《小見出し》激動の世界情勢の底流にあるもの－相待妙と絶待妙－天台・伝教から大聖人へ－法華最勝の教え－天台伝教を超えて・三秘開顕－お題目を正しく受持することが大切。

331号（2022－08）【講話】真の価値とは＝崇峻天皇御書より《小見出し》変化するものの価値－ものの価値－欧米によって日本文化が再評価される－プライスリーダー－命は第一の宝－卍和が璞－如意宝珠の譬。